

もう一度見直したい！

授業づくりの基本 26



福岡教育大学附属福岡中学校



令和5年3月

目次

I 実態把握

- Q 1 事前に生徒の実態を把握するポイントは？
- Q 2 生徒の実態把握をどのように生かせばよいのか？

II 学習過程

- Q 3 単元を構想するときの手順とは（追加）
- Q 4 めあてを引き出したり生徒の意欲を高めたりする導入のポイントとは？（追加）
- Q 5 「振り返り」の場面で書かせるべきこととは？（追加）

III 「主眼」と「めあて」

- Q 6 「主眼」と「めあて」の違いとは？
- Q 7 「主眼」と「めあて」を設定する手順とは？

IV 発問

- Q 8 発問づくりのポイントとは？
- Q 9 発問と質問の違いは？
- Q 10 教師の「指導言」には何がある？

V 板書

- Q 11 板書で最初に気を付けることは？
- Q 12 学習内容が定着する上手な板書のポイントは？
- Q 13 黒板を使うよさは何か？
- Q 14 めざすべき板書の在り方とは？

VI 学習形態

- Q 15 ペア活動やグループ活動を仕組むポイントは？
- Q 16 質の高い交流活動にする上で大切なこととは？（追加）

VII ICT

- Q 17 ICTにはどのような活用法がありますか？（追加）

VIII 道徳

- Q 18 「考え、議論する道徳」において、考えを深めさせるための工夫とは？
- Q 19 「考え、議論する道徳」において話し合いを活発にさせる工夫とは？

IX UD（ユニバーサルデザイン）

- Q 20 授業のUDとは？
- Q 21 UDの視点を生かした授業づくりをするためには？

VI 特別支援教育

- Q 22 個別の教育支援計画とは？
- Q 23 個別の指導計画とは？
- Q 24 自立活動の指導とは？
- Q 25 生活単元学習とは？
- Q 26 学習場面における教材・教具の工夫とは？（追加）

Q1 事前に生徒の実態を把握するポイントは？

A 「学習の定着度（知識・技能）」、「課題に対する見方・考え方（思考・判断・表現）」、「単元に関する興味（主体的に学習に取り組む態度）」など、評価の観点を踏まえ、それぞれに応じた方法を準備することが大切です。

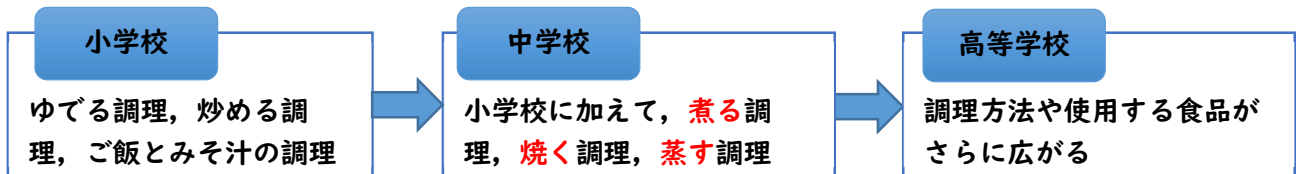
「何を」	「どのように」
単元に関する既習内容の定着度やつまずき	小テスト、事前アンケート
単元に関する興味、関心、意欲	事前アンケート
単元の学習課題や内容に関する見方・考え方	事前アンケート、様相観察

<小中高の系統性について>

- 各教科の学びとともに、小学校・中学校・高等学校の学びも生徒の中でつながるようにする必要があります。小学校や下学年での指導内容を明確にしていきましょう。

<家庭科 調理実習の例>

- 各校種の学習指導要領より



- アンケート・レディネステストなど

・これまでの学習の定着度は・・・

1, 次の切り方の名称を答えよう。

① () ② () ③ ()

2, 計量カップ1ばいは何mlですか。
ア, 100ml イ, 200ml ウ, 500ml

3, 計量スプーン(小)1ばいは何mlですか。
ア, 5ml イ, 10ml ウ, 15ml

4, 固ゆでたまごは、沸とうしてからおおよそ何分間くらいでできますか。
ア, 3分間 イ, 5分間 ウ, 10分間

5, フライパンで調理するとき、油はいつ入れるとよいですか。
ア, 火にかける前 イ, フライパンが熱くなったら
ウ, 材料を入れてから

学習内容の定着, つまずき, 見方・考え方など

・普段の生活はどうなっているのだろう・・・

1, 食についてどんなことに興味がありますか。興味があるものに2つ〇を付けてください。
ア, 調理の仕方(家庭での調理など) イ, 加工食品(インスタント, 便利食品を含む)
ウ, 健康や成長 エ, 食品の栄養
オ, 食の安全性 カ, マナー
キ, 環境(ゴミの分別や洗剤など) ク, その他()

2, 朝ご飯を食べていますか。
ア, はい イ, ときどき ウ, いいえ

① 1で<ア, はい>と答えた人は主に何を食べていますか。
a, ご飯 b, パン c, その他()

② 1で<イ, ときどき>または<ウ, いいえ>と答えた人はなぜ食べないのですか。
a, 時間がない b, 食欲がない c, ダイエットをしている
d, その他()

3, 保護者の方が留守のときの土日や夏休みなどに昼ご飯はどうしていますか。
下の項目の中で多いものに2つ〇を付けてください。
ア, 準備されている イ, 自分で作る ウ, ファーストフード
エ, コンビニの弁当など オ, 外食 カ, その他()

興味・関心・意欲など

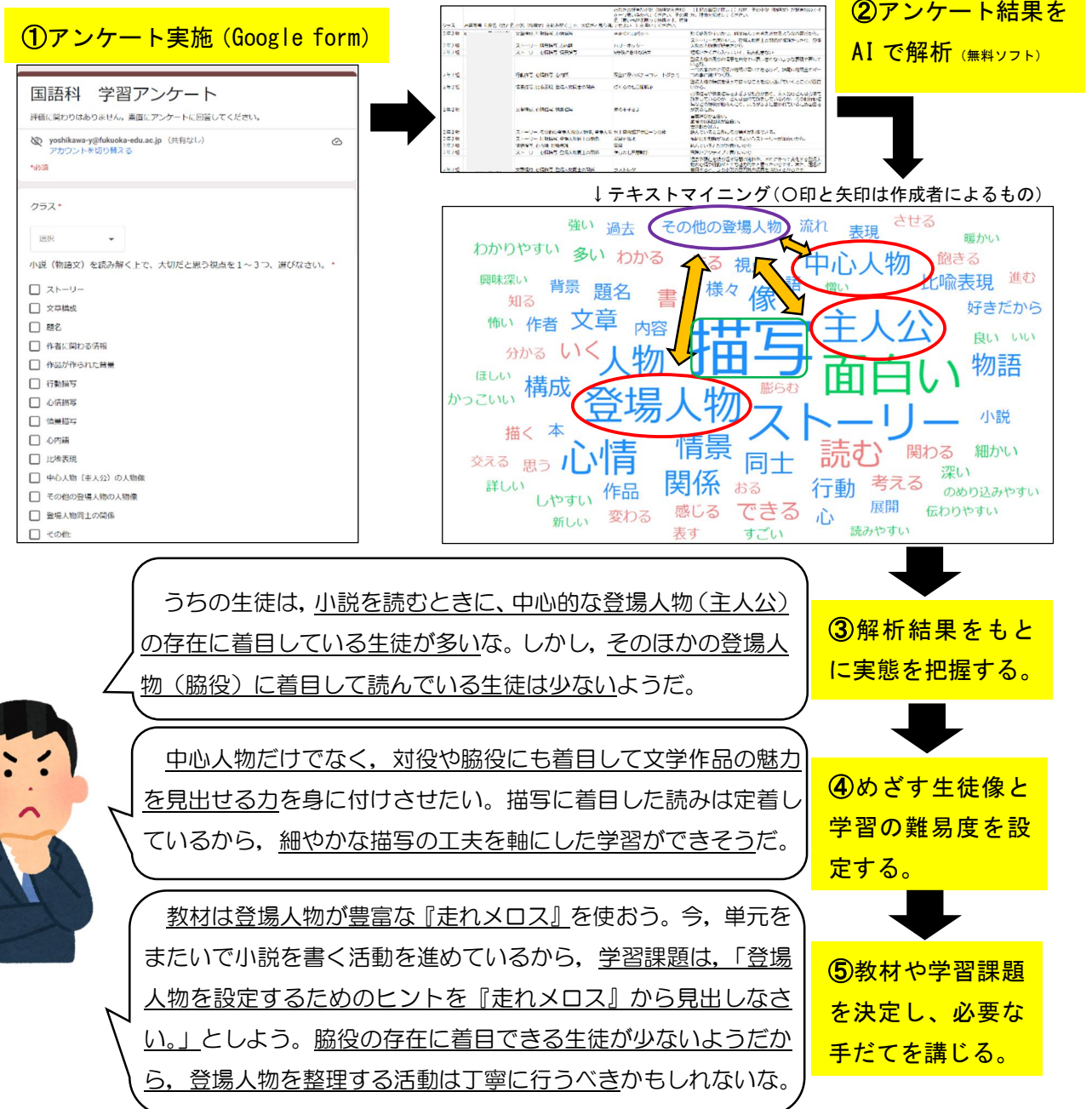
Q 2 生徒の実態把握をどのように生かせばよいのか？

A 学習課題の難易度の設定や生徒が学習を行っていく上で予想されるつまずきに対しての手だての準備に生かすことができます。

<学習課題の難易度について>

- 把握した生徒の実態を基に、一人で調べても解決できず仲間と交流することが必要となる難易度の学習課題を設定することが大切です。

<国語科（2学年）の例>



参考文献 『学びの共同体の改革』 佐藤学 (2014)

『魅力あふれる授業づくり資料集』 福島県教育庁南会津教育事務所 (2014)

Q3 単元を構想するときの手順とは？

A 以下の4つの手順をふまえることが大切です。

単元とは生徒の学習活動の一連の「まとめり」のことです。

単元を構想するには、

- ①学習指導要領を読み、その単元で育てる資質や能力を確認しましょう。
- ②育てる資質や能力をもとに、生徒の実態に応じて、何をどこまでできるようになることを目指すのかを具体的に、目指す生徒の姿を決めます。これが単元の目標となります。
- ③単元の目標を達成するために、学習内容をどの順番で扱うか（配列）、どのくらいの時間で扱うか（配分）を決めます。
- ④単元の目標をどの程度達成できたのかを判断するための評価規準を作成します。

ここからは、①と②について理科を例に説明します。

<単元：力のつり合い>

①学習指導要領では、以下のように、育てる資質や能力が記載されています。

物体に働く2力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いだすこと。また、力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解すること。

②生徒の多様な能力・適性、興味・関心、性格、学習経験等を捉え、育てる資質や能力を具体的な姿で表します。

目指す生徒の姿

物体にはたらく重力とつり合う他の2力のそれぞれの大きさと向きを調べ、図に表すことができる。

目指す生徒の姿が明らかになると、思考・判断・表現する場面や課題を設定しやすくなります。

水の入ったバケツを一人で持つ場合と、二人で持つ場合は、どちらが軽く感じるでしょうか。

では、二人でバケツを持つとき、二人の距離が近い場合と、遠い場合では、どうでしょう。

二人で持った場合の方が、軽く感じます。

二人の距離が近い方が、軽いように感じます。バケツの重さは変わらないのになぜだろう？

課題

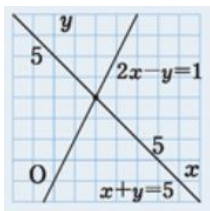
水の入ったバケツを二人で持つとき、二人の距離によって必要となる力の大きさは変わるのか説明せよ。

Q4 めあてを引き出したり生徒の意欲を高めたりする導入のポイントは？

A **さまざまなズレや学習課題に対する不十分さに気づかせることです。**

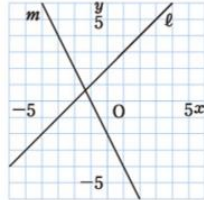
	定義	効果
ズレ	前時の学習や生活経験などから発生する違和感のこと	生徒に「あれ？」「なんで？」という問いを生み、主体的な学びへつながる
不十分さ	自分が目指している姿と現在の自分の姿との差のこと	目指す姿が明確になり、その方向への道筋が見えることが、学びへの重要な動機付けになる

<数学科（2学年）の例> 単元：一次関数



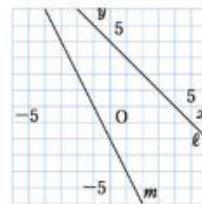
交点は(2, 3)です。
座標からわかります。

では、こうなったらどう？



えっと・・・座標からは読み取れないよ

さらに、こうなったらどうかな？



えっと・・・直線が交わることはわかるけど・・・

<理科（1学年）の例> 単元：水溶液

50mLの水と50mLのイソ-ルを混ぜると体積はどうなる？



では、実際に混ぜてみましょう。結果は100mLよりも小さくなりましたね。



100mLになるとおもいます！



100mLにならないのはなぜだろう？混ぜることで何が起きているのだろう？

<外国語科（2学年）の例>

受け身形を中心的な言語材料として「セブ島に在住の外国の方に京都の歴史的建造物の魅力を紹介する。」という学習課題を設定している題材の場合

原稿の内容を付加修正する時間において、導入時にアメリカの祝日である”Thanksgiving Day”について端的に説明した例文と詳細に説明した例文の2つを提示し、「どちらの例文のほうが相手に内容をわかりやすく伝えることができるか。」「なぜそう思うのか。」と発問した。

この手だてにより、日本独自のものを説明する際は、詳細な説明がないとそのもの自体を相手が理解できないことに気付かせた。つまり前時までには作成した原稿の不十分さに気付かせた。

Q 5 「振り返り」の場面で書かせるべきことは？

- A**
- ① 本時の達成に対する成果
 - ② 学習を経て新たに気が付いたこと
 - ③ 自分が学習で工夫したこと
 - ④ 他者の考えのよさ
 - ⑤ 学びを通じた後で、更に学んでみたいこと、疑問に思ったこと、考えてみたいこと

「振り返り」は子ども軸から見ても、教師軸から見ても双方の「成長」を促す効果がある。



次の学びにつなげよう

音楽科実践例

めあてを達成するために取り組んだこと	まとめ (わかったこと, できるようになったこと, 感じ取ったこと, 疑問に思ったこと, 次時に頑張りたいことなど)	今日の Myキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初と今日聞いたポレロの違いに注意した ・ 曲の特徴を3つのポイントに分けて考えた ・ 楽器と旋律の結びつきに気がつけた 	<p>ポレロは同じ旋律が繰り返されていても全く飽きないけれど組み方が違うポレロもおもしろくて聴き込まれるようだった。旋律と強弱、速度の3つに着目して聞くと、速度は一定だったり、ずっと強くなり続けていたり特徴的な部分がたくさんあったのでとても興味深かった。なぜ、速度は変わらないのに速くなったり遅くなったり聞こえる人がいるのだろうと考えることを考えたいと思った。</p>	<p>視点を具現化することによって深く曲について知ることができる！</p>

3 工夫して考え、取り組んでみたこと

2 学習活動を通して、明らかになったこと
5 学びの中でさらに考えたり表現したりしてみたいと感じたこと

保健体育科実践例

1 本時の達成に対する成果

本時の活動内容・反省	次時の課題・目標
今日の授業では来週の礼法について知ることになった。礼法はたくさんあるけれど、おれと座礼があることが分かった。おれ、左座右入れ、入るといって分かった。次回の授業ではおれと座礼について詳しく知りたい。今日の授業ではおれと座礼について	次時も今回習った礼法を意識してできるようにしたい。また、次時は受け身について学習するが、安全に礼法を行うには何が必要かを考えて学習できるようにしたい。次時は他の受け身についても

5 学びの中でさらに考えたり表現したりしてみたいと感じたこと

外国語科実践例

5 学びの中でさらに考えたり表現したりしてみたいと感じたこと

社会科実践例 3学年 OPPA シート

①最初に書いたwritingと最後に書いたwritingを比べて、どのように変化しましたか。

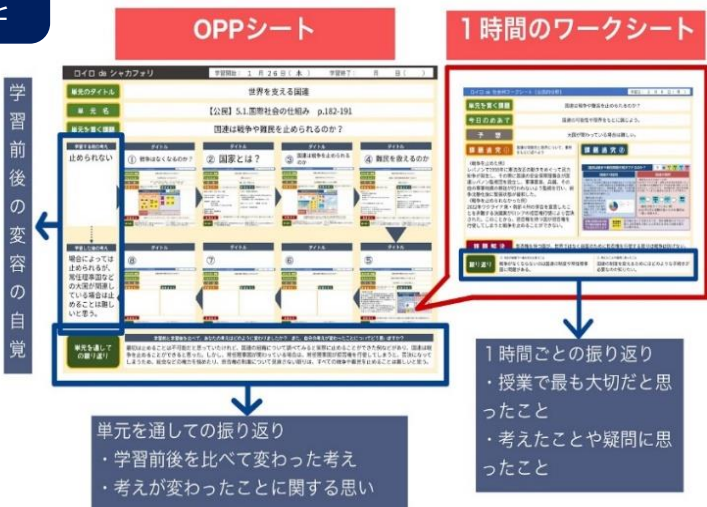
まず、一番変わったのが紹介する場所の数だと思います。元々は3つ紹介するつもりでしたが、1つに絞った方が相手にもおすすめ度が伝わると思ったので、下鴨神社だけにしました。

なのでより深く魅力を伝えられたかなと思います。

次に表現だと思います。日本語にも同じような意味の言葉やことわざなどがあるように英語にも様々な表現があるので、その表現によって自分特有の魅力を伝え方ができるという考え方が生まれたと思います。

食べ物だったら食感を入れたり、建造物や自然はbeautifulではなく、他の綺麗な山などの景色と比較級を使って比較したりなど工夫点を増やすことができるようになりました。

また、自分の経験などを入れてただの紹介ではなくコミュニケーションになるような内容にできたかなと思います。この単元で学んだことを次回以降の単元にも生かしていきたいです。



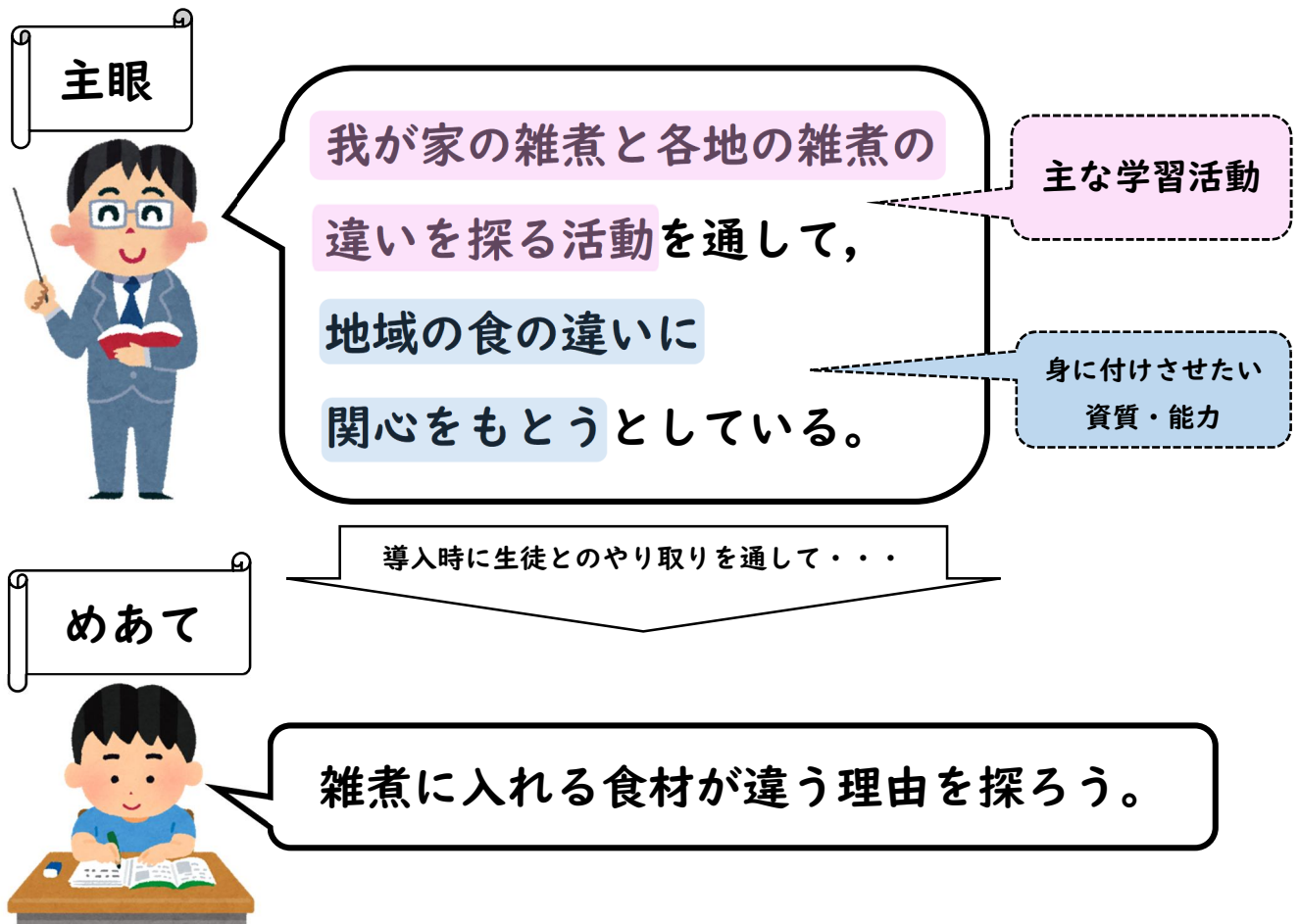
毎時間の振り返りを積み重ね、学習の変容を自覚させることで、生徒は成長を実感し、教師は授業改善に取り組むことができる！

Q6 「主眼」と「めあて」の違いとは？

**A 「主眼」は目指す生徒の姿を教師の言葉で、
「めあて」は主眼に沿って生徒の言葉で表現した
ものです。**

「主眼」とは、授業における目指す生徒の姿を教師の言葉で表現したものです。「〈主な学習活動〉を通して、〈身に付けさせたい資質・能力を習得〉することができる。（しようとしている。）」という形式で表現します。〈主な学習活動〉には、目指す生徒の姿を実現させるために行う活動を記述します。また、〈身に付けさせたい資質・能力〉には、資質・能力を身に付けた目指す生徒の姿を記述します。

「めあて」とは、目指す生徒の姿を実現するための学習活動や実現までの道筋を、「主眼」に沿って生徒の言葉で表現したものです。生徒が主体的に取り組めるように表現したり、目指す生徒の姿を具体的な行動として表現したりするなどの工夫が必要です。実際の授業では、授業の導入や生徒とのやり取りに工夫をしながら、できるだけ生徒の発言を用いて提示するよう心掛けましょう。



Q7 「主眼」と「めあて」を設定する手順とは？

A 目指す生徒の姿を基に、「逆向き設計」で設定します。

「逆向き設計」とは、①単元（題材）の目標→②本時の主眼→③評価規準→④めあて→⑤学習活動と手だてという流れで、授業のゴールから設計していくことです。

それでは、学習指導案の本時案に書かれる項目を例に説明します。

まず、単元または題材全体を通して目指す生徒の具体的な姿である、①単元（題材）の目標を設定します。

次に、教師の立場で①単元（題材）目標と学習活動とのつながりを示す②本時の主眼を決めます。

さらに、③評価規準を設定します。単元及び題材全体では、3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）全てについて書き表しますが、一単位時間の中で3観点すべてについて評価を見取することは現実的ではないため、1つの観点到絞るなどが大切です。そして、導入の流れを想定して④めあてを設定します。実際の授業では生徒と共につくるものだという認識を忘れずにもっておきましょう。

最後に、①単元（題材）の目標を達成するための、⑤生徒の学習活動や教師の手だてを設定します。生徒の思考の流れを常に最優先に意識しながらより具体的に書き表します。

これは一単位時間の話ではなく、単元または題材全体の計画についても同様です。

第○学年○組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案 指導者 ○○ ○○

1 単元（題材）「日本の食のよさを広めよう」

2 目標

- 和食の特徴について捉えたとともに、現代の日本の食における課題や地域の食材を使うことの意義について説明することができる。
- 食文化継承についての課題を見付け、その解決をめざして食生活を豊かにするための自分なりの献立を工夫することができる。
- 地域の食材を生かした雑煮の作り方やだしの特徴を捉えることを通して、地域の食文化に関心をもち、継承していこうとする。

3 計画（6時間）

第一次 各地の雑煮の特徴について調べる。……………1時間（本時）

第二次 だしの種類を調べ、それぞれの特徴を話し合う。……………2時間

(1) だしを試飲し、だしの取り方を調べる。……………1時間

(2) だしの特徴をまとめ、それぞれのだしに合う料理を調べる。……………1時間

第三次 日本の食文化について調べる。……………2時間

(1) 和食の特徴についての情報を整理する。……………1時間

(2) 収集した情報をもとに献立レポートを作成する。……………1時間

第四次 現代の食の課題について考察する。……………1時間

4 本時 令和2年○月○日（○） 第○校時 計画 第一次 2年○組教室にて

5 主眼

- 我が家の雑煮と各地の雑煮の違いを探ることを通して、地域の食の違いに関心をもちようとしている。

6 準備

- ①ちらし寿司の写真 ②そうめんの写真 ③おせち料理の写真 ④学習プリントNo.1
- ⑤各地の雑煮のカード ⑥学習プリントNo.2 ⑦雑煮の分布図

7 過程

学習活動（内容）	評価規準（○印が評価項目）	形態	配時
1 行事食について話し合い、今まで食べたことのある雑煮を思い出す。 ・年中行事と料理 ・行事食の食材と由来	① 行事食には意味があることに着目させるために、おせち料理に使われている黒豆やエビなどが食べられる理由を問う。 ② 各家庭の雑煮の違いがあることに気付かせるために、普段家庭で食べている雑煮の具を問う。	一斉	10
めあて 雑煮に入れる食材が違う理由を探ろう。			
2 それぞれの家庭の雑煮に使われている食材の違いを見つけて、雑煮の文化圏の違い	○ 地域による食の違いに気付かせるために、小集団で雑煮に入っている具の相違点と共通点を比較させる。	個人 → 集団	10
3 博多雑煮の特徴を探る。 ・地域の雑煮の由来 ・食に関わる地域性	⑤ 地域に根付き、伝統的に受け継がれていることを捉えさせるために、博多雑煮に使われている食材の理由を問う。 ⑥ だしの違いに気付かせるために、だしの材料になる食材を調べる。	一斉 → 個人	15
4 雑煮に使われている食材について考察する。 ・地域の食材を使う意義 ・季節の食材を使う意義	○ 雑煮の特徴から地域による食の違いがあることを記述することができたか。 <学習プリント分析>	個人	15

①単元（題材）の目標

②本時の主眼

③評価規準

④めあて

⑤学習活動と手だて

Q 8 発問づくりのポイントとは？

A 「学習活動で見いだしたこと(事実や事柄)」、「課題解決のための見通し(方法や手順)」、「判断したり結論づけたりした理由(根拠や理由)」など、学習活動に応じた意図的な問いづくりが大切です。

発問とは、わかっている人(教師)がわかっていない人(生徒)に対して発する問いのことです。

「なぜ」「どのように」のように、生徒の考えた「理由」や「方法」などを問うもので、答えが様々に分かります。発問を行う際には、何のために問うのかを明確にしておく必要があります。

<発問づくりに必要なこと>

- 教材研究を通して、理想状態(正解)が何かを見出す。
理想状態…授業終了後に「こうあってほしい」と思う姿
- 理想状態(正解)を問うための発問を考える。
- 発問を考えたら、その問いを生徒がどうしたらもつかを考える。
=子ども自身が認知的なズレを意識させる。

<ねらいごとの発問の例>

- 「事実や事柄」を問いたいとき→「このことから何がわかりますか。」
「それは何ですか。」
- 「方法や手順」を問いたいとき→「どのような方法でやればよいのですか。」
「この場合、次はどうしたらよいですか。」
- 「理由や根拠」を問いたいとき→「なぜそうなるのですか。」
「あなたはなぜそのように考えたのですか。」



Q9 発問と質問の違いは？

A 発問は生徒の考えを対立、分化が生じ、対話や集団での考えの深化につながるものです。

質問は、既習事項などを確認するものです。

発問は、答えが分かれることで、考えの対立・分化から対話や集団での考えの深化につながっていきます。

質問は、既習事項などを教科書などから読みとらせたり、資料から探させたりして確認させます。

子どもたちに何かを問うときに、「発問」か「質問」かを教師がはっきり区別しておく必要があります。

	問いかけ	応答
発問	・健康を維持するためにどうしますか？	・栄養バランスの摂れた食事と適度な運動と十分な休養をとることを心がける →自分の言葉でまとめている
	・今後、あなたは健康のためにどのような行動を取りますか？	・早寝、早起きをして、朝ごはんを毎日摂るようにする。また、間食はなるべく減らし、毎日30分程度ウォーキングをする。 →自分の生活と照らし合わせて述べている
質問	・健康のために食事は大切ですか？	・はい →「はい」、「いいえ」などで容易に答えられる。
	・健康のために必要な五大栄養素は何ですか？	・たんぱく質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン →一問一答で既習事項などの確認をする。



Q10 教師の「指導言」には何がある？

A 「発問」「説明」「指示」「助言」があり、それらを意図的に使い分ける必要があります。

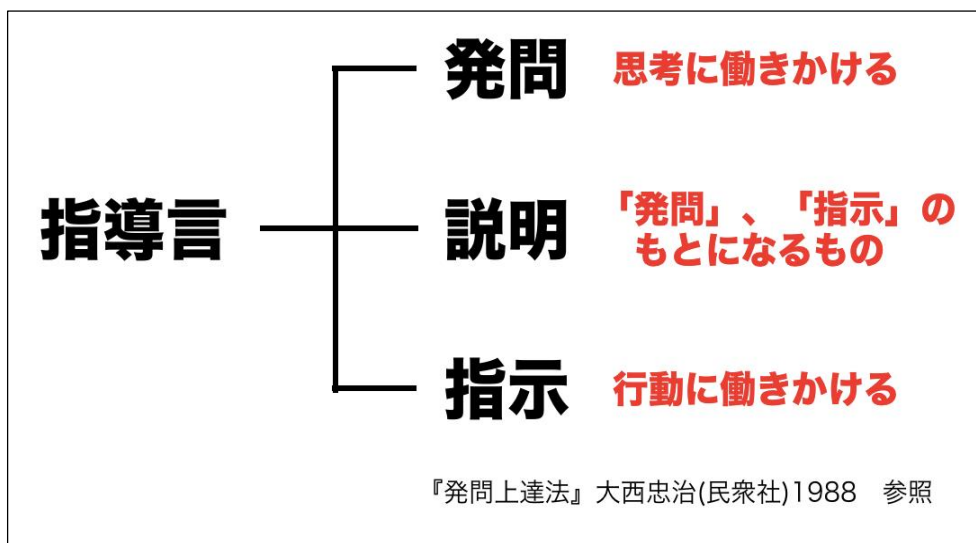
説明とは・・・子どもたちにとって未知の内容について、すでに知っていることなどを手がかりにしながら分かりやすく述べること

指示とは・・・子どもに行動、活動、作業などを要請してやらせること

助言とは・・・子どもたちの様々な活動の深化・発展を図る上で、役に立ちそうな言葉をかけること

学習課題に対して「発問」したほうがよいのか、「説明」したほうがよいのか、それとも「指示」したほうがよいのかを選ぶようにします。その際、【資料1】にあるように、課題に対してどのように向き合わせるのかを考えます。

【資料1】指導言の種類



文部科学省：『補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集』（2002）

石井英真：『授業づくりの深め方～「よい授業」をデザインするための5つのツボ～』ミネルヴァ書房（2020）

栗田正行著：『発問する技術』東洋館出版社（2017）

桔梗友行編著：『子どもの力を引き出す新しい発問テクニック』ナツメ社（2012）

大西忠治著：『発問上達法』民衆社（1988）

Q11 板書で最初に気を付けることは？

A 色の使い分けや線の種類等にルールを設けて、生徒と共有しましょう。

「赤いチョークでの文字は見えづらい」ということを聞いたことはありませんか。広い教室の中で、様々な場所から黒板を見ている生徒は、必要に応じてノートやプリントに書き写していきます。

色使いや記号の形状などの「板書のルール」を、生徒と共有し、わかりやすく学習内容が伝わる工夫をしましょう。

板書の原則

○チョークで書く文字は、白と黄の二色。

○赤や緑、青のチョークは 傍線や囲みで使う。

○色以外の情報も加える。

(形状や輪郭線、記号、文字、矢印等…)



輪郭



記号



Q12 学習内容が定着する上手な板書のポイントは？

A 「正確性」「明確性」「計画性」「持続性」「再現性」を意識した板書づくりです。

板書は、生徒の理解を定着させたり、考えを深めたりする手助けをしてくれます。

「正確性」は、丁寧な文字や定規を使った線で、見やすく読みやすくします。

「明確性」は、カードを用いて重要語句などを示します。

「計画性」は、ノート1ページと板書1枚が整合するようあらかじめ仕組みます。

「持続性」は、消したり、急に追加したりして戸惑わないようにします。

「再現性」は、学習内容を振り返れるようにします。



見やすく読みやすい文字で
書いて！

正確性

ポイントを分かりやすく
示して！

明確性

ノートは見開き1枚で
終わらせて！

計画性

見直したいから消さないで！

持続性

家で振り返りができるように
して！

再現性

Q13 黒板を使うよさは何か？

A 「視覚的機能」と「記録的機能」を活かした「ライブ感」あふれる授業づくりができます。


教師の巧みな話術と、生徒による発表だけでは、授業は成立しません。また、事前に作成されたスライドだけでも十分な効果があがりません。

色や図などを生かした「視覚的機能」と、重要語句や生徒の考えを適切に配置した「記録的機能」を発揮し、思考力や表現力が最大限引き出されるライブ感あふれる授業をつくりましょう。



教師や生徒の「発言」

- どんなに優れた発言も、視覚的に示さなければわかりづらい。
- すぐに消えて、残らない。

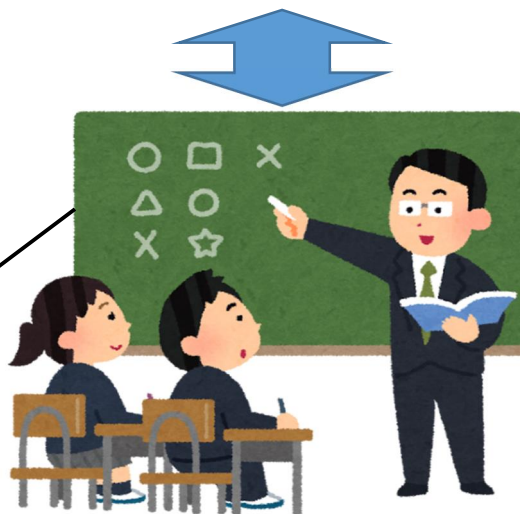


準備された「スライド」

- 次々と移り変わるスライドは、情報が残らない。
- 既定の流れに陥り、「ライブ感」が薄れる。

黒板を使えば...

色や図、資料を使って
分かりやすく示す！
【視覚的機能】



黒板には、生徒や
教師の発言が残る！
【記録的機能】

リアルタイムで思考の
流れが見える！
【授業のライブ感】

Q14 目指すべき板書の在り方とは？

A 「思考の作戦基地」となる板書づくりを目指しにしましょう。

「思考の作戦基地」とは、生徒にとって必要な「情報」が整理されたり、「情報」を取り出しやすくしたり、「情報」を使って自分の考えをまとめたりすることができる情報提供の場です。教師が準備した貼りものだけを貼ったり、生徒の発言をただ書き写したりしているだけの「掲示板」として利用しては、その機能を十分に発揮させていません。

「思考の作戦基地」となるような板書を目指します。

生徒と教師の「思考の作戦基地」となる板書

何に迷い、どこで混乱しているのか
という問題を明確にする板書

生徒の思考の流れの過程が明確に
示された板書



大量の情報を構造的に捉え、比較
しやすい板書

既存の知識と、新たな知識を結び
付けやすい板書

千葉昇：『板書什則』国土舘大学初等教育学会（2016）

荒木隆：『実践教師の心得長 新しい学力観に基づく指導の基礎・基本』

文部科学省：『色覚に関する指導の資料』（1989）

文部科学省HP：『子ども達の望む板書』（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/005.htm）

陣川桂三：『教育へのまなざし』ぎょうせい（1999）

北尾倫彦 他：『精選 コンパクト教育心理学』北大路書房（2006）

Q15 ペア活動やグループ活動を仕組むポイントは

A ペア活動は、一問一答で答えられるような知識の確認場面、生徒が率直に感じたことの交流の場面等で仕組めます。グループ活動は生徒一人一人が授業で整理した考えを深めさせたり、新たな考えを創造させたりしたい場合などに仕組めます。

活動形態	活動の目的
ペア	「既習内容の確認」や 「本時に対しての見通しや気づきを促す」など
グループ	「自分で整理した意見の交流（他者の考えとの比較）」や 「課題解決に向けた意見整理や議論」など

<外国語科（2学年）>

受け身形を中心的な言語材料として「セブ島に在住の外国の方に京都の歴史的建造物の魅力を紹介する。」という学習課題を設定している題材における例

活動形態	活動の場面
ペア	・導入の際、前時に学習した受け身形の使用法を確認させる場面 ・日本の歴史的建造物を易しい単語で説明する ALT の映像を視聴させ、表現の工夫を見出させる場面
グループ	・より工夫した表現に気付かせるために、京都の歴史的建造物を説明した英文を原稿の中の良い表現について交流させせる場面 ・より相手に伝わりやすい話し方にするため、発話練習をグループ内で行う場面

対話する目的に応じてペア活動とグループ活動を分けることによって、必然性のある対話活動を仕組むことができたり、生徒が目的意識をもって対話活動に臨むことができたりしますね。



Q16 質の高い交流活動にする上で大切なこととは？

A 交流の目的や方法、形態などを明確にし、教師と生徒で共有することが大切です。

交流では、多様な意見を出させて“拡散”をねらうのか、一つの結論を出させて“収束”をねらうのか一様ではありません。しかし、どちらにも共通していることは、すべての生徒が交流の前と後で自身の思考・判断に広がりや深まりがあり、生徒自身にそのことを実感させることです。

入口

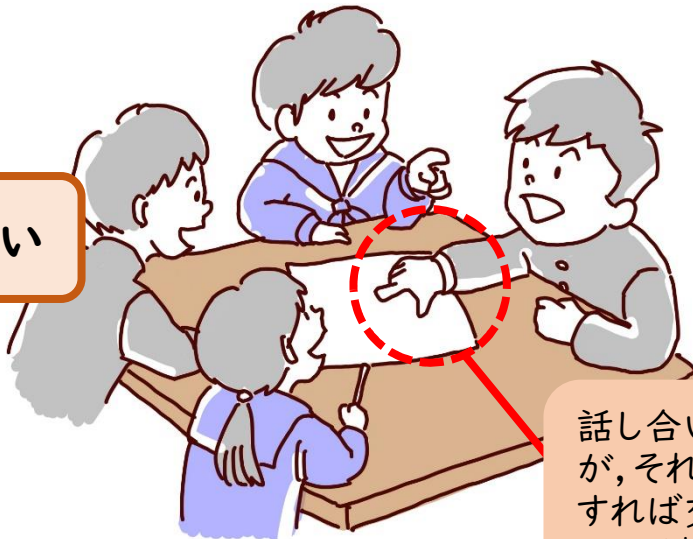
話し合うテーマ、内容、方法、まとめ方、時間などを設定し、事前に生徒に明示しましょう。

課題に対して生徒に自分の意見をもたせることが大切です。

交流の形態は、学習内容・目的によって柔軟かつ慎重に設定しましょう。

- ・ペア
- ・小集団(班)
- ・チーム(体育科)

話し合い



交流の行きつく先は批判ではなく共感です。たとえ自分と意見が一致しなくとも、相手の考えとその根拠や理由に耳を傾けることが大切です。

話し合いは音声言語が中心ですが、それを可視化する資料を用意すれば交流は活性化し、考えを深めたり整理したりできます。

出口

交流で深まった考えを、再度自分で振り返らせる時間を設定しましょう。

振り返りでは、自分の考えが誰の、どんな助言によってどのように変わったかを記録させることも重要です。(Q〇:「振り返り」参照)

Q17 ICTにはどのような活用法がありますか？

A 教材の提示や調査学習だけではなく、話し合いなどの協働学習においても活用できます。

【本校が考える ICT 活用場面の分類】

学習形態	活用場面		
一斉学習	教材の提示	発表	モニタリング
個別学習	個に応じた学習	調査活動	思考を深める学習
	表現・制作	振り返り・評価	情報分析
協働学習	発表	協働での意見整理・解決	協働制作
	学校の壁を越えた学習	調査活動	意見交流

家庭科での実践例 【協働での意見整理・解決】

Google の Jamboard を活用して、グループで表出した多様な意見の整理を促しました。「健康な食生活を送るために必要な条件はなんだろう？」という発問をすると、個人が考える条件を打ち出し、「品数」、「自分に合った量」、「栄養バランス」、「味」、「見た目」、「調理方法」などの区分に整理することができました。

その後の授業では、整理した条件を思考の視点とし、食生活アドバイザーになりきり、教師が提示したモデルケースの食生活を改善するための献立作成を行いました。

外国語科での実践例【意見交流】

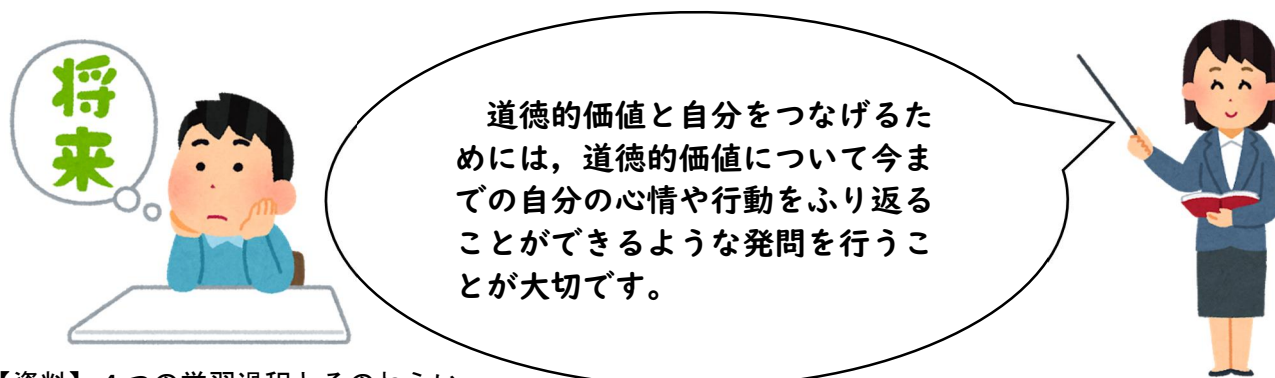
グループでよりよい表現を見出させるために、ICT (ロイロノート) を使って互いの表現を可視化し、話し合う場面を設けました。絵本のストーリーを英文で表現していくなかで、一つの日本語の文章からうまれる多様な英語表現にふれることで、考えを広げることができました。

左の写真は、日本語のあらすじ(水色のシート)を生徒Aから生徒Dまでが英訳したシート(ピンクのシート)です。

Q18 「考え、議論する道徳」において、考えを深めさせるための工夫とは？

A 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる話し合い活動を学習過程を位置づけることで

道徳的価値を自分のこととして捉えることができる話し合い活動を学習過程に位置付けるとは、【資料】のようなものです。道徳的価値と自分の行動を照らして考えたり、自己を見つめさせたりする学習活動を取り入れ、道徳的価値を一般化し、自分とのつながりを話し合わせる事が大切です。



【資料】 4つの学習過程とそのねらい

学習過程	学習活動・手だて
【導入】 道徳的価値を意識させます。	ねらいとする道徳的価値に対して、現在もっている道徳的価値を意識させることができるような活動や発問を仕組みます。
【展開前段】 道徳的価値を広めたり、深めたりします。	資料や友だちの考えを基にして、ねらいとする道徳的価値を深めさせることができる話し合い活動等を仕組みます。
【展開後段】 道徳的価値を一般化し、内面から自覚させます。	<u>これまでに出た考えをもとに道徳的価値を一般化し、自己を見つめさせることができるような中心発問を準備し、話し合い活動等を仕組み学習内容をまとめさせます。</u>
【終末】 実践への意欲をもたせます。	本時の学習を整理し、実践への意欲をもたせることができるよう教師の説話を行ったり、参考となる資料を提示したりします。

Q19 「考え、議論する道徳」において話し合いを活 発にさせる工夫とは？

A 「自問自答型問いかけ」の視点を取り入れた補 助発問を仕組むことです。

補助発問とは、【資料1】のようなものであり、この補助発問を意図的に活用することにより、生徒に新たな議論を与えることができます。

また、議論を活発にし、自己を見つめさせるために必要なことは教材や価値に対しての自我関与です。この自我関与を高めるために、道徳の本質を浮かび上がらせ、生徒が自分の生き方を倫理的に振り返ることをめざした【資料2】のような「自問自答型問いかけ」が必要です。

【資料1】 補助発問の目的や効果

	目的や効果
補助発問 (類義語) 切り返し ゆさぶり 否定発問	・いわゆる「問い返し」発問。基本発問や中心発問における子どもの反応に対して、価値の本質的な理解に向かう道筋を修正したり、わかったつもり之感覚を崩し、新たな気づきを促したりする。使う場面によって効果が変わるため、意図的に用いることで授業の流れを調整できる。

【資料2】 自問自答を促す発問の種類と発問例（「相互理解、寛容」の内容項目）

発問の種類	発問例
① 場面を問う ○特定の徳を発揮できる場面とできない場面の違いはどこか。	・寛容になれる場面と寛容になれない場面の違いはどこですか。
② 限度を問う ○特定の徳の限度はどこまでなのか。	・寛容とはすべてを容認することなのでしょうか。
③ 必要性を問う ○どうしてこの徳が必要なのか	・みんなが広い心をもたなかったらどんなことが起こりますか。
④ 関係性を問う ○徳の対象は何か・誰に対する徳なのか。	・自分への寛容と他者への寛容はどこが違いますか。
○他者と自分がどんな関係にあるのか。	・自分と利害関係にある人には寛容でも、自分と利害関係のない人には寛容でなくてもいいのでしょうか。

『道徳教育 10月号 No.724』明治図書(2019)

福岡教育大学附属久留米中学校：『明解・授業づくりのコツ（特別の教科 道徳）』大昌印刷所(2018)

飯屋園昭彦：『鹿児島大学教育学部実践研究紀要 vol.24 p147-p156』(2015)

Q20 授業のUD（ユニバーサルデザイン）とは？

A 障がいの有無にかかわらず、多様な人々が利用しやすいものづくりや仕組みづくりについて、計画段階からあらかじめ設計しておく考え方のことです。

通常の学級に在籍する全ての児童生徒が授業に参加し、「わかる・できる」ことを目指す授業デザインが必要です。小・中学校の通常の学級に、学習面又は行動面で特別な支援や配慮を要する児童生徒は約6.5%在籍。必要かつ適当な変更及び調整が求められています。

教科等の教育では、教科等の本質にせまるために、主に本時のねらいを絞ったり、授業展開の筋道を明確にしたりして、児童生徒にとって分かりやすい授業を構想してきました。

また、特別支援教育では、児童生徒の困難さに応じて、情報を絞ったり視覚情報を与えたりしてきました。

これらを「シンプル」「クリア」「ビジュアル」「シェア」という4つの視点で整理し、授業づくりに生かすことで、児童生徒にとって分かりやすい授業に変わります。

視点	教科等の教育	特別支援教育
シンプル	本時のねらいや発問を絞る	余分な刺激をなくし、必要な情報に絞る
クリア	授業展開の筋道を明確にする	活動の内容や順序など、見通しを示す
ビジュアル	言語情報に加え、視覚情報や具体物を併用する	
シェア	少人数で話し合う場面を設定し、発言機会を保障する	

Q21 UD（ユニバーサルデザイン）の視点を生かした授業づくりをするためには？

A シンプル・クリア・ビジュアル・シェアの4つの視点をもって授業づくりをしましょう。

教科等の教育では、教科等の本質にせまるために、主に本時のねらいを絞ったり、授業展開の筋道を明確にしたりして、児童生徒にとって分かりやすい授業を構想してきました。また、特別支援教育では、児童生徒の困難さに応じて、情報を絞ったり視覚情報を与えたりしてきました。これらを「シンプル」「クリア」「ビジュアル」「シェア」という4つの視点で整理し、授業づくりに生かすことで、児童生徒にとって分かりやすい授業に変わります。

● 「シンプル」とは、

本時のねらいやめあて、発問、生徒に提示する情報を絞ることで、生徒の意識や思考が焦点化され、よりスムーズに学習活動に取り組むことができるようになります。

● 「クリア」とは、

授業展開の筋道を明確にし、生徒が授業全体を見通しながら理解を深めていけるようにすることです。教師が授業を構想する際に、授業展開の筋道を明確にすることが大切です。

● 「ビジュアル」とは、

思考や言語などの情報を、絵や写真、図、動作などに変換し、視覚的に提示することです。一般的に、言語情報よりも、視覚情報の方が理解しやすいという傾向があります。

● 「シェア」とは、

意図的にペアやグループなどで話し合う場を設け、全ての生徒が発言する機会を保障することです。また、生徒の発言に対して教師が問い返しや補助発問を行ったり、意味付けをしたりしながら理解を促すことです。生徒にとって自他の考えを伝え合いながら学習を展開することは、学習内容を理解する上で重要な役割を担います。

この4つの視点を意識しながら授業を構想していきましょう。

すべての生徒が「わかる・できる」授業をめざして、工夫することが大切です。

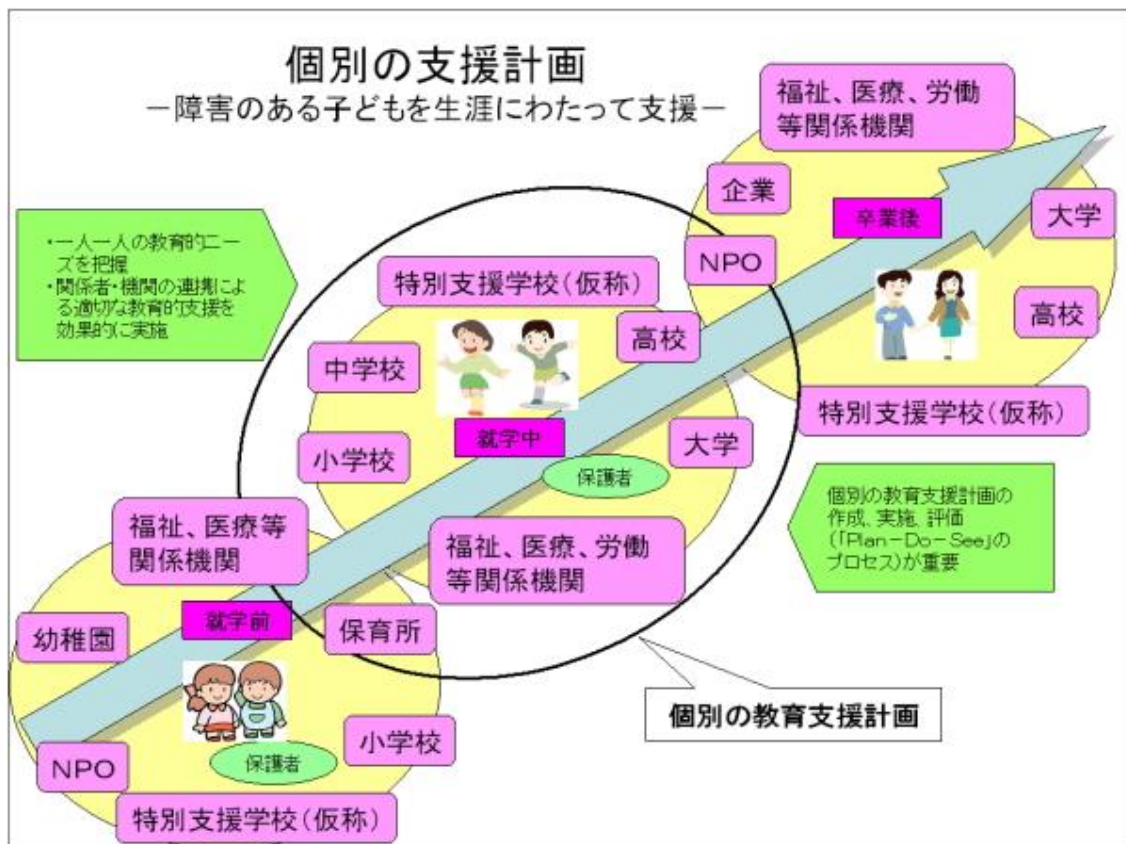
Q22 個別の教育支援計画とは？

A 乳幼児から学校卒業後まで、障がいのある児童生徒一人一人のニーズに合わせて、適切な教育的支援を一貫して行うために、引き継いでいくものです。

毎年、年度当初（4月～5月）に教員と保護者・児童生徒が意思疎通を図りながら作成し、それに基づいて教育活動を進めていくことが望ましいとされています。

また、この教育的支援は、教育だけではなく、福祉、医療、労働などのさまざまな側面からの取組が必要です。関係機関との密接な連携・協力が大切になってきます。

【個別の支援計画のイメージ図】



Q23 個別の指導計画とは？

A 児童生徒の障がいの状態や特性及び発達の数度等に応じて適切な指導を行えるよう、それぞれの学校の教育課程に基づき、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確に記したものです。

個別の指導計画は、個別の教育支援計画をふまえて作成します。効果的な指導を行うため、個別の指導計画を作成した上で、それに基づいて行われた活動の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努めることが求められています。

個別の指導計画を作成する際のポイント

- ①一貫性・・・教職員や家庭との共通理解を図る。
- ②焦点化・・・必要性から目標を絞って設定する。
- ③適時性・・・生活年齢に応じた指導内容や指導方法を取り入れる。
- ④客観性・・・科学的な多様な観点から、総合的にアプローチする。
(関係機関との連携)
- ⑤具体性・・・具体的な時間、回数、量、場所、方法等の内容を記入する。
- ⑥計画性・・・前年度の個別指導計画を参考にしながら、次年度以降の見通しもふまえて作成する。(引き継ぎ資料として活用)

Q24 自立活動の指導とは？

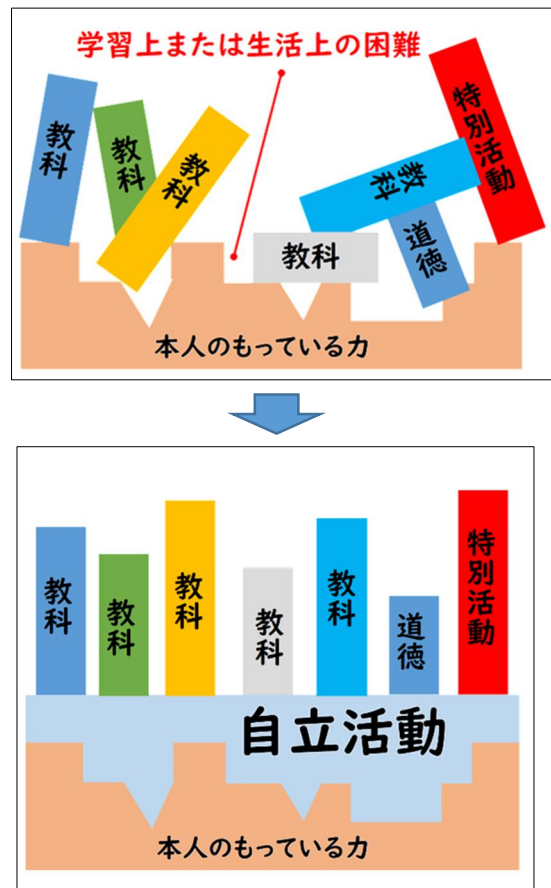
A 個々の障がいによる学習上や生活上の困難を改善・克服しようとする取組を促す指導領域のこと。

特別支援教育では、それらの活動を自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連があります。そのため、個々の児童生徒の障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などを的確に把握して、個別の指導計画の下に適切な授業実践が行われなくてはなりません。

例えば、本校特別支援学級における「日常清掃」を自立活動の視点で分析すると・・・

ゴミを取る人と掃く人とがコミュニケーションを取りながら作業をします。雑巾を床の目印を見ながらまっすぐに端から端まで拭くには環境の把握が必要です。また、雑巾がけは、バランス感覚が必要となるので身体の動きにつながり、清掃を最後まで遂行するためには心理的な安定が欠かせません。更に皆で協力するのは人間関係の形成が必須となり、それらを通して、清潔な生活環境が形成され健康の保持へとつながります。と言うように彼らの日常を分析するとおのずと個々の課題が見え、何を指導するべきかが明確になります。様々な困難性を有している子どもたちが少しでも円滑に日常生活が送れるようにしていく、それが自立活動の面白さでもあり醍醐味です。

【自立活動のイメージ】



Q25 生活単元学習とは？

A 生徒が生活上の目標を達成した、課題を解決したりするために、一定期間、一定の生活上のテーマに沿った一連の活動を組織的・体系的に取り組む学習のことです。

生活単元学習では、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われます。

生活単元学習における指導では、児童生徒の学習活動は、**実際の生活上の目標や課題に沿って**指導目標や指導内容を組織されることが大切です。

1つの単元は2、3日で終わるものから1学期間、1年間続く場合もあります。

本校の「生活単元学習の単元設定」(例)

- 学校行事を中心とした行事単元
- 季節の生活を中心とした季節単元
- 子どもの生活課題を中心にした課題単元
- 偶発的な出来事を中心にした偶発単元

明確な分け方は難しいです。
毎年繰り返されるおなじみの単元と
その年のその時期にしかない単元があると整理しましょう。



Q26 学習場面における教材・教具の工夫とは？

A 興味・関心に結びつくもの、生活に密着したものの、具体的な操作ができるものを教材・教具にすることが効果的です。

【実践例① 個に応じた工夫】

作業学習（木工）「ベンチを作ろう」（各教科等を合わせた指導）

生徒 A が自信をもって一人で作業ができる「作業マニュアル&完成モデル」	
生徒 A の実態	手先は器用だが、経験に乏しい作業は自分で判断ができずに手が止まりがちである。
ねらい	木材の研磨作業で、作業マニュアルや完成モデルを見ながら工程と製品の出来栄を自分で確認し、一人で自信をもって作業を進めることができる。
使用方法	工程や出来栄に不安を感じた際に、作業マニュアルや完成モデルを見て確認する。
引き出す力	完成までを見通す力、判断力
教材・教具の工夫の実際	<p>・作業マニュアルを見ながら出来栄をチェックし、作業に没頭することができた。</p> <p>・同じ規格（研磨具合）のパーツを量産することができた。</p>

生徒一人ひとりが精一杯もてる力を発揮し、首尾よく成し遂げられるように工夫します。





各実践例の教材・教具について
詳しく知りたい方はこちらのリンクへ！


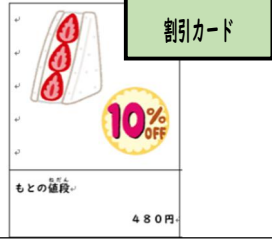



【実践例② グループ実態別に応じた工夫】

国語科「正しく伝える文章を書こう」




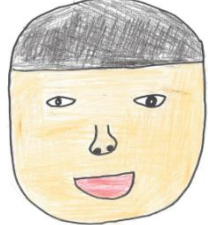

時間の流れが分かり表現の幅を広げることができる「時の表し方ボード」	
グループの実態	「昨日」「今日」「明日」という3日間については、日付が変わっても表現することができるが、その他の時を表す言葉（例：週，月，先週など）を用いながら様子を書くことは難しい。
ねらい	過去に撮影した出来事の様子について，5W1Hの視点を踏まえた文章を書くことができる。
使用方法	「昨日」「今日」「明日」など「日」をあらわす言葉カードを，ホワイトボードに曜日・日付の下に貼り付け，指し示しながら確認する。
引き出す力	記憶，順序性，文章表現，感情表現，文章構成
教材・教具の工夫の実際	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">時の表し方ボード</p> <p style="text-align: right;">確認している様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 出来事を正確に他者へ伝える力が身につく。 一週間というまとまりが捉えられるようになる。 「日」の表現から「週」や「月」へと表現の幅を広げることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>7月2日は「一昨日」だから、一昨日、私は～。</p> </div>

数学科「割引の計算をしよう」

割引の計算を意欲的に取り組むことができる「割引カード&ポイントカード」	
グループの実態	集中力を持続させながら意欲的に計算問題を繰り返し解くことが苦手である。
ねらい	電卓を使って，割引された値段を計算することを繰り返し，計算の仕方をつかむ。
使用方法	<ul style="list-style-type: none"> 「〇%引き」と書かれた割引カードの問題を取りに行く。問題は自分で選ぶ。 割引カードの問題を解き，正解したらポイントカードに貼り，ゴールを目指す。
引き出す力	計算する意欲，計算の仕方，数量への着目
教材・教具の工夫の実際	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>次はこの問題を解きます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>割引カード</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイントカード</p>  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>裏に両面テープを貼り，すぐにポイントカードに貼ることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 一つ問題を解き終わると，次の割引カードを取りに行き，問題を解くことができた。 繰り返し計算することにより，計算の仕方や着目する数字をつかむことができた。

【実践例③ 一斉指導における工夫】

美術科「自画像を描こう」

自分の顔の特徴を捉え、自画像を描くことができる「チェックシート」	
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の各部位の形や位置を認識して描写することが難しい。 ・大きさの認識が難しく、描写が大きすぎたり小さくすぎたりしがちである。
ねらい	自分の顔の特徴を捉えて、自画像を描くことができる。
使用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や鏡で確認しながら自分の顔の特徴をチェックシートで確認する。 ・チェックシートを確認したり、写真や鏡や見たりしながら自画像を描く。
引き出す力	描写力、表現力、ボディイメージ、自己認識
教材・教具の工夫の実際	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○自分の顔を写真や鏡で見て、特徴に○をつけよう。</p> <p style="text-align: center;">チェックシート</p> <p>顔の形 丸型 面長型 逆三角形 四角型</p> <p>目の形 たれ目 つり目 細い目 丸い目</p> <p>鼻の形 鼻が低い だんご鼻 小鼻が大きい 鼻が高い</p> <p>眉毛の形 平行眉 アーチ眉 直線眉 上がり眉</p> <p>くちびるの形 唇が厚い 唇が薄い 上唇が厚い 下唇が厚い 唇が大きめ 唇が小さめ</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>耳の大きさはこれぐらいで、形は…</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">写真や鏡を使って特徴をチェックしている様子</p>  </div> <div style="width: 45%;">  <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">Before (2022.12) After (2023.3)</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・顔の各部位の特徴を捉え、描写力や表現力にいかすことができる。 ・物の大きさが捉えられるようになる。 ・ボディイメージをもち、自己認識を高めることができる。

(参考文献)

- ・福岡県教育委員会(2018)「特別支援教育推進ガイド～一人一人が輝く共生社会の実現を目指して～」
- ・三浦光哉編(2016)『知的障害・発達障害の教材・教具 117』ジアース教育新社。